

## 第23回「社会・意識調査データベース (SORD)」 ワークショップの開催

A Meeting on the 23rd Workshop of the Social and Opinion Research Database Project  
(SORD)

### 「社会調査史の博物館」としてのリージョン拠点データアーカイブの構築の成果と課題

日時：2010年3月7日(日) 13:00~17:30

場所：札幌学院大学G館5階特別会議室

#### (プログラム)

- 13:00~13:10 開会の挨拶            SORD代表 大國 充彦 (札幌学院大学社会情報学部)
- 13:10~13:30 「SORDプロジェクトからリージョン拠点データアーカイブへ——研究組織  
と研究領域」  
大國 充彦 (札幌学院大学社会情報学部)
- 13:30~14:00 「調査データセットの受け入れから『資料集成』作成まで——その意義と課題」  
中澤 秀雄 (中央大学法学部)
- 14:00~15:00 「夕張調査のアーカイブ化(1)——資料整理のノウハウ」  
齊藤 康則 (山口学芸大学教育学部)  
「夕張調査のアーカイブ化(2)——調査票のテキスト化」  
庄司知恵子 (岩手県立大学社会福祉学部)
- 15:00~15:20 休 憩
- 15:20~15:50 「北海道における社会調査の水脈(1): 貧困調査と生活構造論」  
祐成 保志 (信州大学人文学部)
- 15:50~16:20 「北海道における社会調査の水脈(2): 布施グループの労働—生活過程の社会  
調査史」  
新藤 慶 (新見公立短期大学幼児教育学科)
- 16:20~17:00 全体討論
- 17:00~17:15 閉会の挨拶            新國三千代 (札幌学院大学人文学部)

標記タイトルのもとで、札幌学院大学総合研究所の「社会・意識調査データベース (SORD)」プロジェクト第 23 回ワークショップを開催した。SORD では、社会・意識調査に関するデータセット情報の収集・公開を行う一方、北海道に根ざした地域研究を収集整理するデータアーカイブとして活動している。SORD を母胎として、2006 年から 2009 年の 4 カ年、日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究(B), 課題番号 18330108, 研究代表者: 大國充彦) に採択され、重点的な資料収集・整理と調査・分析を行ってきた。科研費研究の課題名は「社会調査史の博物館」としてのリージョン拠点データアーカイブの構築」であり、本ワークショップは本研究の最終年度報告にあたる。

本研究の目的は、特定空間の「読み取り装置」を明らかにするために、社会調査の成果とそのデータ (調査票だけではなく、調査関連資料を含む) をどのように活用するのかにある。「読み取り装置」という言葉には、得られたデータをいかに読み取るのかという意味と、現実の社会を実際にどのように読み取るのか=調査票をいかに作成しどのように書き込むのかという意味との二通りがある。研究の目的を遂行するために、2つの柱を立てた。第1に、SORD が受託している夕張調査のデータセットを整理し、公開に向けた作業を実際に行うことであり、第2に、北海道における社会調査の水脈を発掘し、北海道における社会調査の鳥瞰図を得ることである。

ワークショップの中澤、齊藤、庄司報告は、前者のデータセットに関する報告であり、祐成、新藤報告は後者の社会調査の水脈に関するものである。また、冒頭の大國報告は、SORD の活動と科研費研究の関連について指摘したものである。当日の報告や科研費研究の内容については、『夕張調査』資料集成——布施鉄治編『地域産業変動と階級・階層』(1982) 調査関係資料コレクション——(SORD, 2009), 『北海道における社会調査の水脈——戦後復興期から 1970 年代まで——』(SORD, 2010), 第 83 回日本社会学会大会における祐成、新藤、庄司、大國の各報告 (祐成, 2010) (新藤, 2010) (庄司, 2010) (大國, 2010) を参照していただきたい。

最後に、札幌学院大学総合研究所に位置する SORD プロジェクトと学外研究者も多く参加する科研費研究との関連について私見を述べる。まず第1に、「リージョン拠点データアーカイブ」として SORD の果たす役割は大きいと考えられる。科研費研究は研究期間が数年間と限られているため、研究期間中に収集・整理された資料やデータをどこに保管するのかは決まっていない。これまでの社会調査の多くでは、担当する研究者の研究室に保管され、後任の研究者がそれを受け継いでいく間に、調査関連資料が散逸していくケースが見られる。SORD のような大学内の組織があれば、個々の研究者の移動にかかわらず、関連資料が置かれていることが明確になる。第2に、科研費研究の期間内に集めることが出来た資料、整理が終わった資料だけでなく、未整理資料や資料リストを SORD に保管し、科研費終了後にも整理することが出来る点である。重点的な整理は出来ないかもしれないが、継続的な資料整理、公開準備が可能になる点は、北海道社会に関心を寄せる研究者にとっては大きな意味がある。最後に、保管、管理されずに朽ち果てていく北海道社会関連の資料を一時的に救出する拠点としても機能することが出来る。このように、研究者個人ベースではなく組織ベースで「リージョン拠点データアーカイブ」が存在していることは、研究者に対してだけでなく、北海道社会に対して大きな貢献を果たすことが出来ると考える。その意味で、本学が SORD の活動を評価してくれていることに感謝したい。

### 参考文献

- 中澤秀雄ほか(2009)「『社会調査のアーカイブズ学』の必要性：札幌学院大学 SORD が取り組んだ「夕張調査資料集成」作成経験からの提言」『理論と方法』24(1)：121-128.
- 西城戸誠ほか(2005)「社会調査からみる北海道資本主義史：SORD 北海道プロジェクトの準備状況報告をかねて」『社会情報』14(2)：293-317.
- 大國充彦(2010)「戦後北海道における社会調査史の再構成とデータアーカイブの構築(1)——「社会調査史の博物館」としてのリージョン拠点データアーカイブの構築——」『第83回日本社会学会大会報告要旨集』：264.
- 札幌学院大学 SORD データアーカイブ編(2009)『「夕張調査」資料集成——布施鉄治編『地域産業変動と階級・階層』(1982) 調査関係資料コレクション』平成18-21年度文部科学省科学研究費補助金成果報告書.
- 札幌学院大学 SORD プロジェクト編(2010)『北海道における社会調査の水脈——戦後復興期から1970年代まで——』平成18-21年度文部科学省科学研究費補助金成果報告書.
- 新藤慶(2010)「戦後北海道における社会調査史の再構成とデータアーカイブの構築(3)——布施鉄治の労働—生活過程の社会調査史——」『第83回日本社会学会大会報告要旨集』：266.
- 庄司知恵子(2010)「戦後北海道における社会調査史の再構成とデータアーカイブの構築(4)——「夕張調査」関連資料に基づく資料整理・保存の方法論——」『第83回日本社会学会大会報告要旨集』：267.
- 祐成保志(2010)「戦後北海道における社会調査史の再構成とデータアーカイブの構築(2)——貧困調査と生活構造論——」『第83回日本社会学会大会報告要旨集』：265.